GRIPS 開発フォーラムウェビナー

日本と北アフリカの産官学連携の最前線：食薬資源総合研究から産業育成まで

GRIPS 開発フォーラムでは、アフリカにおける産業開発の様々な事例をテーマとした勉強会を行っています。今回は、2011 年 7 月に「産官学連携による産業開発支援：日本の協力で芽生える北アフリカでの産業化の事例」についてご登壇頂いた筑波大学地中海・北アフリカセンター（ARENA）の礒田博子教授（バイオテクノロジー）と柏木健一教授（中東・北アフリカ経済）を再度お迎えし、その後の展開についてお話いただきます。

ARENA は、1990 年代から継続されてきた北アフリカ諸国の学術機関との交流を通して、現地食薬の応用研究から商品開発までを網羅し、日本の科学技術支援の主要なツールである SATREPS[1]を 2 回実施しました。SATREPS の成果は JST の「SATREPS の成果を活用した SDGs ビジネス推進プログラム」や JICA の「中小企業 SDGs ビジネス支援事業」へとつながり、現在は、日本・北アフリカ民間企業 25 社からなる企業コンソーシアムが形成され、創薬支援プラットフォームの構築と天然物由来創薬ライブラリの開発を軸に、当該地域のオリーブや薬用植物の素材調達の連携が進められています。

昨年の TICAD8 においても、ARENA の取組は、食薬資源の高度利用による持続的社会経済開発と SDGs 目標達成に向けた、日本とアフリカ間の産官学連携の好事例として注目されました。コロナ禍や不安定な地域情勢下においても、日本と北アフリカの研究者及び企業が連携を深めてきた経験は、他国においても多くの示唆を含むものと思います。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

日時: 2023 年 6 月 14 日（水） 16:00～17:30 （日本時間）
場所: オンライン（ZOOM） **言語**: 日本語のみ
プログラム:

16:00～16:05 趣旨説明 大野泉教授（GRIPS）
16:05～16:30 礒田博子教授（筑波大学）「グローバルサウス対応型地域食薬研究拠点の構築と統合的研究」
16:30～16:55 柏木健一教授（筑波大学）「革新的食薬サプライチェーン構築によるオリーブ産業育成研究」
16:55～17:25 Q&Aとディスカッション（モデレーター：上江洲佐代子 GRIPS 研究員）
17:25～17:30 総括コメント、クロージング 大野泉教授

参加希望の方は、下記リンクよりご登録をお願いいたします。

https://grips-ac-jp.zoom.us/webinar/register/WN_2LrnPYzJRUujLi_x1EVTRQ
お名前はイニシャルやニックネームではなく、本名でのご登録をお願いいたします。ご登録いただいた個人情報は、当フォーラムのイベントや勉強会の案内の送付以外には使用いたしません。

登壇者:

礒田博子教授

筑波大学 生命環境系
専門は食品科学・細胞生物学
ARENA 副センター長

柏木健一教授

筑波大学 人文社会系
専門は開発経済学、
中東・北アフリカ経済研究

[1] 地球規模課題対応国際科学技術協力事業（SATREPS）は、科学技術振興機構（JST）、日本医療研究開発機構（AMED）がそれぞれ国際協力機構（JICA）と連携して、地球規模課題の解決に向けて、日本と開発途上国との国際共同研究を推進するプログラム。